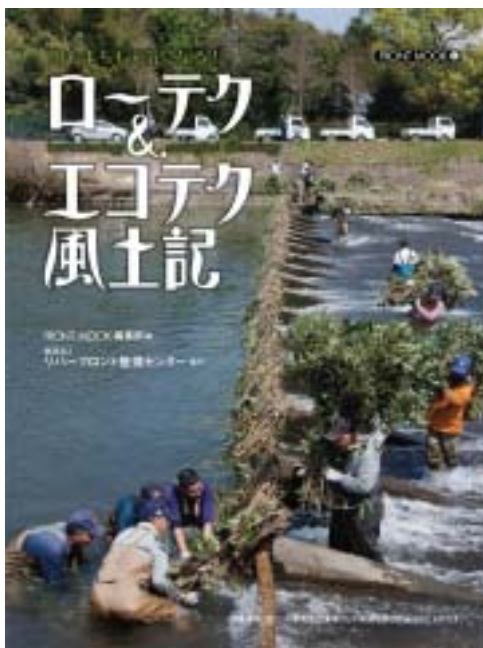


# 『川もまちも元気になる! ローテク&エコテク風土記』

河川・海岸グループ 研究員 都築隆禎

## 1. 本書の目的

本書では、山林や河畔林等の荒廃による河川の安全性の低下、地域産業の疲弊等、全国各地で起こっている問題を鑑み、資源の循環を視野に入れつつ、川や水辺のポテンシャルを高める身近な技術を再考した。「多自然川づくり」等の参考に資すると同時に、農林水産業をはじめとする地場産業との連携を提案し、市民や子供も参加できる地域の活性化を目的として出版した。



## 2. 内容

地域の資源を利用したかつての治水や利水の技術は、地場産業ともリンクし、持続可能な地域社会の基盤を担っていた。本書では、月刊誌『FRONT』で取り上げた事例のその後を追うとともに新たな試みも紹介し、昔ながらのエコロジカルな技術を今に活かす知恵を探った。



—目次—

### 【巻頭言】

○ものづくりの知恵と技術 (竹村公太郎)

### 【グラビア】

○風土に息づく知恵と技の景

①水害防備林

②石積み

③堤防

④溜め池

### 【Part 1 伝統工法に学ぶ川とのつきあい】

○「農の営み」としての柴堰

～鹿児島県串良川・川原園井堰 (吉村伸一)

○伝統工法から考える「川」と「人」の関係

～新潟県内の事例から (大熊 孝)

○伝統工法の担い手は今

～粗朶沈床—新潟県信濃川／

～聖牛—静岡県大井川 (入松田倫子)

○治水に生きる竹の文化

～黒部川の「川とび」と竹蛇籠 (宮村忠)

○石井樋に学ぶ川のトータルデザイン

～佐賀平野の治水利水システム (島谷幸宏)

### 【Part 2 地の利を活かしたテクノロジー】

○中国・都江堰と千年持続学

～自然の摂理、技術者の倫理 (沖 大幹)

○明治の遺産、本願寺水道の活かし方

～京の寺と市民が考える防災とコミュニティ

再生 (大須賀 護)

○琉球・風の島のテクノロジー

～風水思想が導く風景美 (都築晶子)

### 【Part 3 市民も参加できるローテク&ローコストの知恵袋】

○「小さな自然再生」のすすめ

～生物多様性を取り戻す地域戦術 (三橋弘宗)

○山口県発「水辺の小わざ」

～川や生物の立場から魚道をつくる (小澤武範)

○田んぼにできたリーズナブルな魚道

～栃木県「メダカ里親の会」の取り組み

(石山翔子)

○間伐材で浮島をつくってみたら

～「NPOとよあしはら」の目指すもの (山畑泰子)

○サステナブルな地域のあり方と水辺

～青森県大畑町のふるさと再生 (山畑泰子)

### 【Part 4 地域の資源を活かすエコテク】

○藻場再生に挑む「海の森づくり」

～「NPO 海の森づくり推進協会」のコンブ栽培

(市川倫也)

○竹で温泉を冷ます!? 別府温泉の「湯雨竹」

～大分の竹を使った古くて新しい技 (佐藤由美)

○間伐材で防雪柵をつくる

～北海道の道路に設置された木製防雪柵

(石山翔子)

○地域で支える線香水車

～福岡県八女市の馬場水車場 (佐藤由美)

○小水力発電の課題と未来

～未来を支える水の力とその活かし方

(佐藤由美)